

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075300204		
法人名	医療法人社団 親和会		
事業所名	グループホーム きんもくせい (さくら棟・ひまわり棟)		
所在地	〒820-1103 福岡県鞍手郡小竹町勝野4202番地の7 Tel 09496-2-8882		
自己評価作成日	令和04年02月17日	評価結果確定日	令和04年03月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和04年02月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が自ら手料理を作っているところ。
イベントの小道具は出来るだけお金を掛けずに作成している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「きんもくせい」は、地域の要望に応じて18年前に開設された定員18名のグループホームである。母体医療機関医師の月2回の往診、病院看護師、ホーム看護師、介護職員との連携で24時間安心の医療体制が整っている。読み聞かせボランティアを始め、中学生の職場体験、実習生の受け入れ、町民祭りへの参加等、地域交流と次世代の人材育成に力を入れて取り組んできたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。働きやすい環境のため、職員の離職はなく、長く勤める職員が多い。コロナ禍で面会や外出が制限される日常が続く中、何とか利用者を楽しんでもらいたいと、「食べる」「歌う」を中心とした手作りのレクリエーションを提供して利用者の笑顔に繋げ、利用者や家族と深い信頼関係が築かれている、グループホーム「きんもくせい」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づいてご利用者様の尊厳を第一に考えて日々支援している。	基本理念と各ユニットの理念を見やすい場所に掲示している。毎月のカンファレンスの中で唱和して意識づけを行い、日頃の何気ない接遇、対応に活かせるように心掛け、利用者一人ひとりのその人らしい暮らしの継続に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で行えていない。	町民祭りへの参加や地域のボランティア「朗読会」、中学生の体験学習、実習生の受け入れ等、地域に開かれたホームを目指して取り組んできた。併設老健施設の秋祭りには多くの地域住民や家族が参加し、利用者も見物に出かけ、交流を図っていたが、コロナ禍で現在は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほとんど出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議議事録を御送りした際、ご意見を頂戴する。	運営推進会議は、コロナ禍のため2ヶ月毎に書面で開催している。利用者の入退居状況、生活状況、事故、ヒヤリハット、行事についての報告を、写真をたくさん掲載することでわかりやすく伝えている。参加者委員から意見や感想を聴き取り、出された意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、現管理者になってから、対面での会議が開催出来ていない。コロナ収束後の会議再開に向けて、参加委員との関係作りに取り組むことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ほとんど出来ていない。	管理者は、毎月の空き状況や事故等の報告を通じて、行政と連携を図っている。運営推進会議の資料を役場担当者に送付してホームの実情を伝え、アドバイスを受ける等、行政と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームカンファ内で内部研修を行い、より理解を深めている。特にスピーチロックに気を付けている。	ホームカンファレンスの中で、身体拘束廃止委員会を中心に話し合いを行っている。定期的に身体拘束の研修を実施して資料の読み合わせを行い、定期的にアンケートを実施する等して自らを振り返り、再確認する機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームカンファ内で内部研修を行い、より理解を深め取り組んでいる。職員同士でも不適切な言動や行動が無いか振り返り、改善できる点は改善し、共有する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームカンファ内で研修として勉強を行っている。	権利擁護の制度については、ホームカンファレンスの中で研修を行い、全職員が理解できるよう努めている。また、制度に関する資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から相談があれば、内容や手続き方法を分かりやすく説明し、利用者の権利や財産が不利益を被らないように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者が説明を行い、ユニットのリーダーにも立ち会ってもらうこともある。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、運営推進会議や意見箱を置いている。	コロナ禍で面会は制限されているが、差し入れや支払い等で来訪された時に、家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、不安な事を聴き取っている。運営推進会議に家族の参加があり、現在は書面で報告を行い、意見や感想を聴き取り、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主にホームカンファ内等で意見を聞いて今後につなげている。	月1回、ホームカンファレンスを開催し、多くの職員が参加している。担当だけでなく、周りの職員からも活発に意見が出され、出された意見や要望を出来るだけホーム運営に反映させている。参加できなかった職員に対しては、議事録を申し送りノートやタイムカード横に貼る等して周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	良い所はほめて、のばしてもらうように努めている。利用者様にもそれで良い方にもって行って日常生活が楽しく行ってもらえたらと思っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ほぼ行っている。 一人でも多く働いてほしい。	職員の習熟度や経験に応じた外部研修受講や資格取得を奨励し、そのためのバックアップ体制も整え、職員が向上心を持って意欲的に働けるよう支援している。職員一人ひとりが特技や能力を發揮して、制作や調理、レクリエーション等、生き生きと働くことが出来るよう、役割分担を行っている。人間関係が良く、働きやすい環境の為職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームカンファ内での研修で、人権・コンプライアンスの問題等取り組んでいる。	利用者の人権を守る介護の在り方について、職員間で話し合い、利用者の個性やこれまでの生活習慣に配慮し、その人らしい人生が継続出来るよう支援している。理念の中に、利用者の尊厳を大切にすることを明示し、職員は、常に意識しながら介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、内外の研修で自己を高め自身の介護力を高め、スキルアップに務める。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で他の事業所の方との意見交換を行い自身の今後の仕事に生かしたい。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のご意向をしっかりと聞き、最善の対応を出来るように心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御面会に来られた際、出来るだけ細かくお話をすることで確認している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族が一番願っていることを最優先で考えてサービスを提供できるように心がけている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共同で家事を行い感謝を伝え本人様にはやりがいを持って頂き嬉しむられる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御面会に来られた際、本人様の状況を細かくお伝えしご家族様とのコミュニケーションを大事にするよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナまん延の為、外部からの訪問、外出は全くできていない。	コロナ対策以前は、利用者の家族や家族以外の方とも出来るだけお話できるように取り組んできた。自宅への一時帰宅や外泊、家族と馴染みの場所に出かける等、本人の意向を聴きながら、これまでの馴染みの人や場所との関係が、ホーム入居で途切れないよう支援してきたが、現在はコロナ禍の中で自粛している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話をする機会を作ったり、席順を工夫したりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じグループ内で支援出来る事は行っていき、グループ全体で本人様を守って行ける様、努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おおよそは出来ていると思うが、外出面などは希望に添えてない。	長く勤めるベテランの職員が多く、その経験からくる観察力、察知力で、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で情報を共有し、利用者の思いが実現できるように努力している。また、意思の疎通が困難な利用者には、家族に相談したり、アセスメントで情報を集め、寄り添う中で、その方の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	おおむね出来ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おおむね出来ている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	小さなことでも職員同士で日ごろから情報交換行っており、ケアカンファなどでもすぐに対応が出来る。	担当職員やケアマネジャーは、家族の来訪時や電話等で家族とコミュニケーションを取りながら意見や要望、心配な事等を聴き取り、ケアカンファレンスの中で検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画となるよう、その都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもとは違う様子があった場合やこんな風にしたら喜ばれた、こんな言葉かけで穏やかになられたなどあった場合、記録に残し職員間で共有する。先にはケアプランの変更も検討。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食べたい等すぐに対応出来る事は行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり出来ていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の往診でご家族様との連絡もしっかり取っており健康管理も出来ている。	母体医療法人医師が主治医として月2回の往診を行い、往診以外の週に病院看護師が健康チェックで訪問している。精神科等、他科受診は家族と協力しながら主に管理者が同行し、情報の共有に努めている。ホーム内にも看護師を配置し、看護師と介護職員が連携して安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常にかかりつけや地域の医療機関とも連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常にご家族様とかかりつけ病院と連絡を取り、出来るだけ本人がきつくない様に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針について、ホームで出来る支援の説明を行い、利用者や家族の希望を聞いている。利用者の状態変化や重度化に伴い、関係者や家族と話し合い、病院への入院支援を行っている。利用者が、出来るだけ長くホームで過ごす事が出来るよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム内でのマニュアルがあり、それに従っている。	/	
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っている。だが、地域との連携を職員が理解できてない様子。	昼夜想定避難訓練を年2回実施し、通常は隣接する老健と合同で行っているが、コロナ禍の為、今年度はホーム単独で実施している。通報装置や消火器の使い方、非常口、避難経路、避難場所を確認し、利用者全員が安全に避難出来る体制を整えている。また、隣接の介護老人保健施設との非常時の協力体制を確認し、非常食、飲料水も準備している。	夜間、夜勤者1人で9名の利用者全員を安全な避難場所に誘導する体制を確立するために、夜間想定訓練を繰り返し行う事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法に忠実に日々努力はするが、同時に複数様とのかかわりの時は(待ってください)のワードが出る場面がある。	利用者のプライバシーを守る介護の在り方を、カンファレンスの中で話し合い、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に合わせて、言葉遣いや対応に配慮したケアに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務についても管理者が職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけはせず(～しましょう?)という言葉かけをするように努力している。	/	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望に沿っている。	/	
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おおむね出来ている。	/	
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備はほとんどの方は出来ませんが何かのイベントなど行う際は、その日のメニューをお伝えして楽しみに変えて頂いたりしている。	食材は委託業者に発注し、職員が手作りの料理を提供している。利用者と職員はテーブルを囲んで、同じ料理と一緒に食べる家庭的な食事の時間を楽しんでいる。茶碗洗いやお盆拭き等、利用者の力に合わせた手伝いをお願いしている。おやつには職員手作りのずんだ餅、正月は手作りお節で祝い、利用者には大変喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぼ出来ている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ出来ている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おおむね出来ている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、利用者が重度化してもトイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間も利用者の希望を聴きながら、ポータブルトイレを使用する等、それぞれの状態に合わせて柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	大体できている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、職員の都合で決めている。しかし利用者様にはお伺いを立て御意思の確認は取っている。	入浴は、利用者の希望を聴きながら、健康状態や気分に合わせて一日おきの入浴を基本として行っている。利用者と職員が一对一でゆっくりと関わる事のできる入浴は、大切な時間と捉え職員は、利用者とコミュニケーションを図っている。また、利用者の全身の健康状態や皮膚観察も行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	大体できている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大体できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状半数位出来てない。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あまり出来ていない。	コロナ対策以前は、外出レクリエーションを企画し、年2回、全員参加の外出行事を行っていた。家族と一緒に自宅へ帰ったり、外食を楽しむ方もおられ、家族と協力しながら外出できるよう支援してきたが、現在はコロナ禍の中、自粛している。気候の良い日は、敷地内を散歩する等、気分転換に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安全面の観点から出来てない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えの強い方には、事前に家族様とのお話合いにて職員が家族の対応をして電話で話したりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大体できている。	天井が高く開放的な室内は、清掃が行き届き、気持ちよく過ごせる環境である。季節毎の飾り物や利用者の作品、行事の写真を飾り、季節感、生活感を大切にしている。食事前には各種体操に熱心に取り組み、口腔体操を兼ねた歌声がリビングに響き、笑い声で賑やかな共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大体できている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大体できている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者馴染みのテーブルセットや椅子、テレビ、仏壇などを持ち込んでもらい、家族の写真や絵、花を飾る等して、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。ベッドと箆筒、洗面台、冷暖房設備が備え付けである。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大体できている。		